

大会結果 予定は体育会ホームページ 専大ホームページ スポーツからアクセスで確認ください
専大スポーツ編集部 web(http://sensupo.com/) 大会結果を配信します

専大スポーツ

No.344

ゴルフ・朝日杯争奪日本学生選手権

小浦

優勝 2年ぶり 2度目

優勝カップを手に笑顔の小浦 日本学生ゴルフ連盟提供



10月28、29日に朝日杯争奪日本学生ゴルフ選手権が埼玉県本庄市のこだまゴルフクラブ(パー70)で行われ、小浦和也(商4・日章学園高)が2年ぶりの2度目の優勝を飾った。

今大会は2日間計36ホールのストロークプレーで、初日の上位60位タイまでが2日目の決勝ラウンドに進出する。

小浦は初日から前半の9ホールを32打で回り勢いづく、後半も大きく崩れることなく34打でまとめ、4アンダーの単独首位で2日目に進んだ。2日目はアンダーで回ることではできなかったもののアウト、イン共に35打のパーに収め、2位に1打差のトータル136打で逃げ切った。

小浦は「学生最後の試合なので一打一打丁寧に

団体戦の信天杯争奪日本学生ゴルフ対抗戦(10月30、31日、こだまゴルフクラブ)は男子が4位、女子が8位だった。(木村健人・商1)

また、小浦は日本オープンゴルフ選手権(10月16、19日、千葉カントリー倶楽部)に出場し、5オーバーの42位タイ。史上7人目となる2年連続ベストアマチュア賞に輝いた。

「2年ぶりに優勝した」と話すが、「2日目にスコアを伸ばしきれなかったところがダメ」と向上心の高さを見せた。

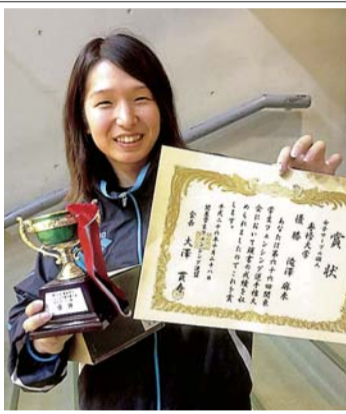
2年連続のベストアマ
日本オープン

フルール団体 女子がV サール滝澤

10月23日から29日まで関東学生フェンシング選手権が駒沢体育館で行われ、女子はフルール団体で優勝。サール個人でも滝澤麻未(経済3・横浜商科大高)が優勝を果たした。

全日本大学対抗選手権(11月11、16日、京都府)の目標を聞くと「もちろん優勝」と力強く語った。

一方、滝澤は「優勝できてうれしい気持ちと信じられない気持ち



女子サーブルを制した滝澤

でいっっぱ

フェンシング・関東学生選手権

フルール団体は昨年の同大会、今年の関東学生リーグ戦と2大会続けて法大に敗れている。

エースの川村理紗(商3・揖斐高)も「特別な相手」と話し、今回も決勝で法大と対戦したが、43-40で雪辱を果たしてついに栄冠を手にした。

フルール個人で4位に入賞した川村だが「団体の優勝しか考えていなかった」と話し、思いの強さを感じさせた。



銅メダルを獲得した女子団体のメンバー

3位 女子団体、単で福永 複で浦谷・篠田ペア

バドミントン・全日本学生選手権

全日本学生バドミントン選手権(10月24、30日、愛知県一宮市総合体育館)で女子が団体3位と健闘。個人でも女子シングルスで福永彩(文3・昭和学園高)が、同ダブルスで浦谷夏未(商4・尚志高)・篠田未来(文4・富岡高)ペアがともに3位に入賞した。フルセットの末、準決勝で力尽きた福永は「目下、3位入賞には満足している。来年は優勝できようように精いっぱい頑張りたい」と語った。

篠田は「優勝を目指していたのでとても悔しい。勝ちを意識してしまっている。いつも通りのプレーをすることができなかった」と大会を振り返ると喜びを語り、「この優勝は先輩方をはじめ部員みんなのおかげ」と感謝の気持ちを表した。

また、男子はサーブル団体で4位、サーブル個人では張真龍(経済4・玉野光南高)が3位に入賞した。(飯塚恒成・文1)



セッターとしてチームをけん引した山本主将

準優勝 8勝3敗

バレーボール・関東大学リーグ戦

秋季関東大学バレーボールリーグ戦(9月6日、10月5日、日体大健志)で専大は8勝3敗(セット率1・875)で準優勝となった。

個人では山本湧主将(商4・東亜学園高)が敢闘選手賞を受賞した。開幕から3連勝と好スタートを切るも、日体大と東海大に連敗。しかし、12月の全日本大学男子選手権に向けて、「優勝をとりにつく」と意気込んだ。(宇佐美春那・文1)【写真も】

野球・東都大学リーグ戦 4季ぶり1部復帰 青学大との激戦制す

東都大学野球秋季リーグ戦(2部、9月6日、10月21日、各大学グラウンド)で、専大は9勝3敗の勝ち点4で優勝。この結果、1部6位の青学大との1部2部入れ替え戦(11月8、11日、神宮球場)に臨み、2勝1敗で見事2013年春以来となる4季ぶりの1部復帰を果たした。

第1戦は重野雄一郎(経営3・専大松戸高)のソロホームランと、渡辺和哉(経営3・文星雲大)の2本塁打で先制した。しかし第2戦は延長十四回の死闘を繰り広げるも、5-6でサヨナラ負けを喫した。

運命の第3戦は初回、先制された直後に打線が冴み掛け、一気に4点奪取。五回には渡辺が3塁打を放つ活躍をした。 (新井健太郎・文2)



マウンドに歓喜の輪が広がる 撮影・斉藤葵



入れ替え戦で3戦連続の活躍をした渡辺 撮影・新井

追加点をあげた。五回からは角田が登板。八回にピンチを迎えたが「全球ストリート」を、気持ちで投げた(角田)。

反撃を断ち切り、6-4で勝利した。

小林夏樹主将(経営4・山梨学院大附高)は先制されたが、負けるイメージはなかった。4年間やってきて苦しいこともあったが、幸せな4年間だった」と話した。

また、2、3戦に先発した高橋礼(商1・専大松戸高)は「九回まで投げることが考えず、全力で投げた。1部では厳しい戦いが続くと思うが、仲間を信じて自分のピッチングをしていきたい」と話した。